

【つくば市】地域住民に対する洪水・土砂災害等、水害に関するリスクコミュニケーション手法

課題の背景

近年、豪雨による洪水や土砂災害などの水害が国内で数多く発生しており、平成27年9月の関東東北豪雨においては、本市と隣接する常総市において、鬼怒川、小貝川の浸水による大規模な人的・建物等被害が発生した。

本市においても洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域が存在していることから、災害時の被害を極力低減させるために、自治体と地域住民間での日常的・効果的なリスクコミュニケーション方法の確立が求められている

課題のゴール

- ・つくば市内の洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域におけるリスクを可視化するなど、地域住民の防災意識の向上に資する、効果的な技術やアイデアを発掘することで、地域住民の備えや災害時のスムーズな行動に繋げることを目指す。

(例えば、水災害データの図表化、VR等により避難経路や災害の危険性等を視覚認識、模擬体験するなどの技術を想定)

求められる要件（機能要求・関連基準等）

- ・スマホアプリまたは市HPをとおして地域住民が簡易に扱えること。
- ・市内の水害関連情報を集約し提供可能であること。
- ・双方向的なコミュニケーションが可能であること。
(豪雨時に、近隣住民から河川の水位状況が投稿可能・上流ライブカメラ映像を市民が閲覧可能等)
- ・小中学生を対象として、水害に関するリスク教育が可能であればなおよい。

協力事項

- ・市危機管理課職員・地域住民（数十名程度）へのヒアリング機会提供
- ・市で保有する水災害関連データの提供（災害想定区域のエリアシェイプデータ）
- ・取組内容の評価